

# 次世代目録所在情報サービス 『中間報告』について

東北学院大学文学部

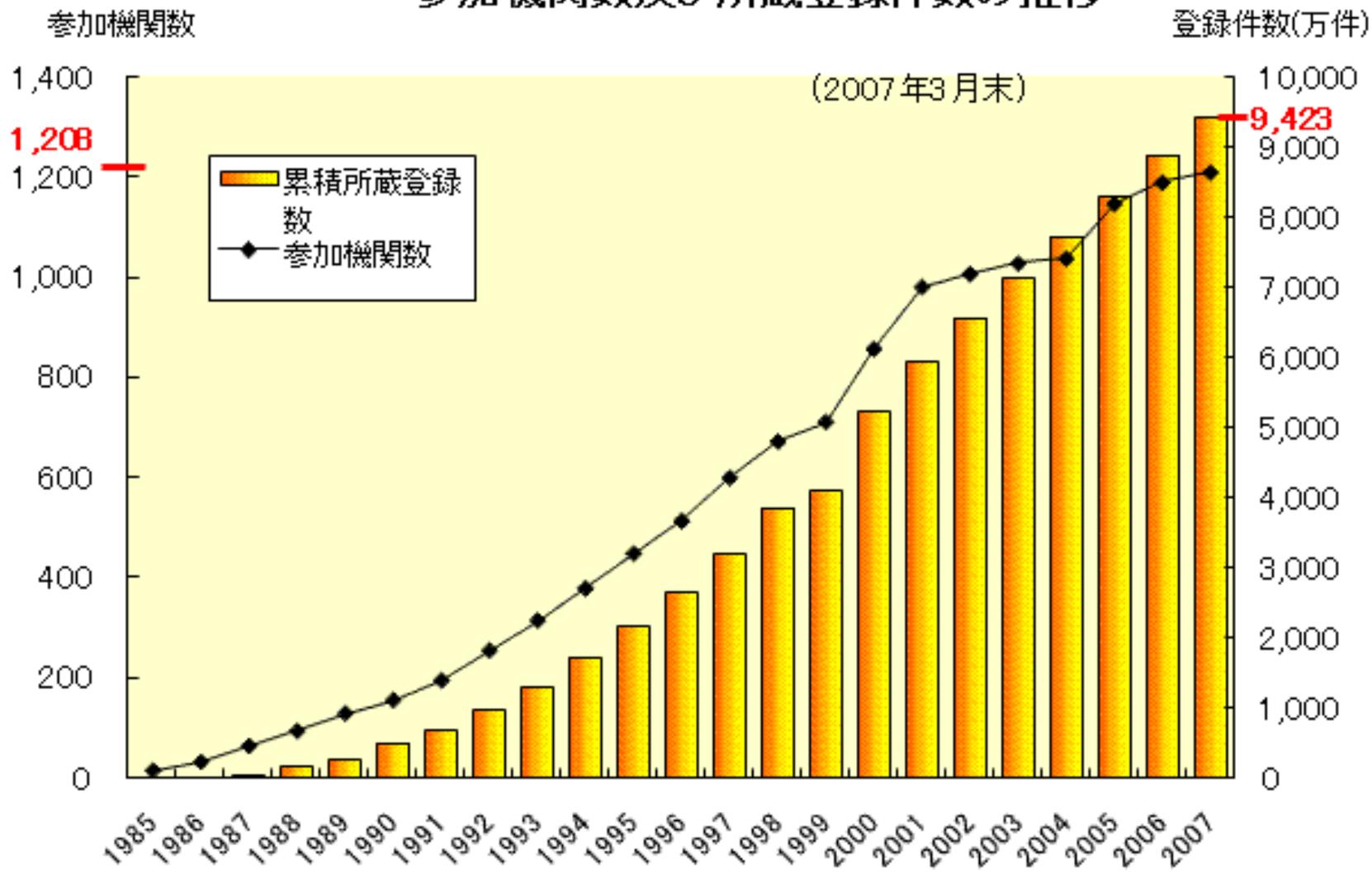
佐藤 義則

# NACISIS-CATの収録件数

ファイル名		収納合計件数
図書	書誌	8,339,541
	書誌(RECON含)	8,979,021
	所蔵	94,961,851
雑誌	書誌	305,459
	所蔵	4,384,907
著者名典拠		1,473,040
統一書名典拠		28,026
変遷マップ		39,794

2008年5月31日現在

# 参加機関数及び所蔵登録件数の推移



# 大学図書館の環境の変化

1. 電子情報資源の拡大とそれに伴う情報の「粒度」の変化
2. 電子的情報資源の量的、質的両面での目録記述の困難さ
3. 電子情報資源間のリンク可能性の増大
4. 利用者行動スタイル(ワークフロー)の変化
5. 結果としての図書館システムの複雑化(断片化)
6. 参加機関における経営合理化の要請と業務の多様化への対応体制

# 1. 電子情報資源の拡大とそれに伴う情報の「粒度」の変化

- ライセンス資料
  - 電子ジャーナル、電子ブック(ebook)
- ボーンデジタルおよびデジタル化されたWeb上の情報資源
- 粒度 (granularity) 問題
  - 「図書」「雑誌」という容れものから、
  - 1論文、1章という構成単位を含む範囲への拡大

## 2. 電子的情報資源の量的、質的両面での目録記述の困難さ

- 質的困難

- 電子情報資源のタイトルはどこからとるのか？
- アクセス情報の固定
  - 永続的な識別子
  - 情報源の識別と同定

- 量的困難

- 電子情報資源に対するメタデータ作成
  - 量に対応できる、効率的な方法が不可欠

### 3. 電子情報資源間のリンク可能性の増大

- 探索可能性 (findability) から発見可能性 (discoverability) へ
- 検索エンジンの全文検索機能と電子情報資源間の動的リンク
  - 電子情報資源そのものが一つの発見の手段として機能する可能性をもたらした

## 4. 利用者行動スタイル(ワークフロー)の変化

- 二次情報データベース、電子ジャーナルの普及
  - 「図書館で探す」 → 「ブラウザ上ですべてを手に入れる」(発見、所在確認、入手、利用(記録))
  - リンクリゾルバの重要性
  - 電子情報資源への参照管理(共有)機能

従来: 利用者が図書館サービスに合わせてワークフローを構築  
現在: 図書館が利用対象者のワークフローに合わせてサービス  
を構築すべき

Lorcan Dempsey's weblog - 2008.5.31, "Workflow is an intermediate consumer."  
<http://orweblog.oclc.org/>

## 5. 結果としての図書館システムの複雑化 (断片化)

- 従来からの物理的形態のコレクション
    - 「図書館システム」
  - ライセンス契約によるコレクション
    - ERMS(電子情報資源管理システム)
  - デジタルな(ボーン・デジタルまたはデジタル化された)コレクション
    - 機関リポジトリ、分野別リポジトリ、CMS/LMS/VLE、、、
- ⇒ 統合的検索環境 (Federated or Meta Search) の必要性

※限定的な市場 ⇒ オープンソースの図書館システム<sub>9</sub>

# 多様なメタ・データの活用の模索

## 1. 専門家による「知識の組織化」

- 目録規則
- 分類、件名
- より精緻な構造化 (FRBR、FRAD、、、) そして、  
【目録規則の改訂】

+ 内容紹介、著者紹介、表紙のイメージ、なか見！  
検索 (amazon)

# 多様なメタ・データの活用の模索

## 2. 利用者の貢献に基づく付加

- 例) タクソノミー／フォークソノミー、タギング、レビュー、リコメンデーション、アノテーション、レーティング、その他

## 3. プログラムによる付加

- 例) パターンや関係の解析に基づく、関連資料の同定、クラスタリング、自動分類、ランキング

## 4. 利用データに基づく付加

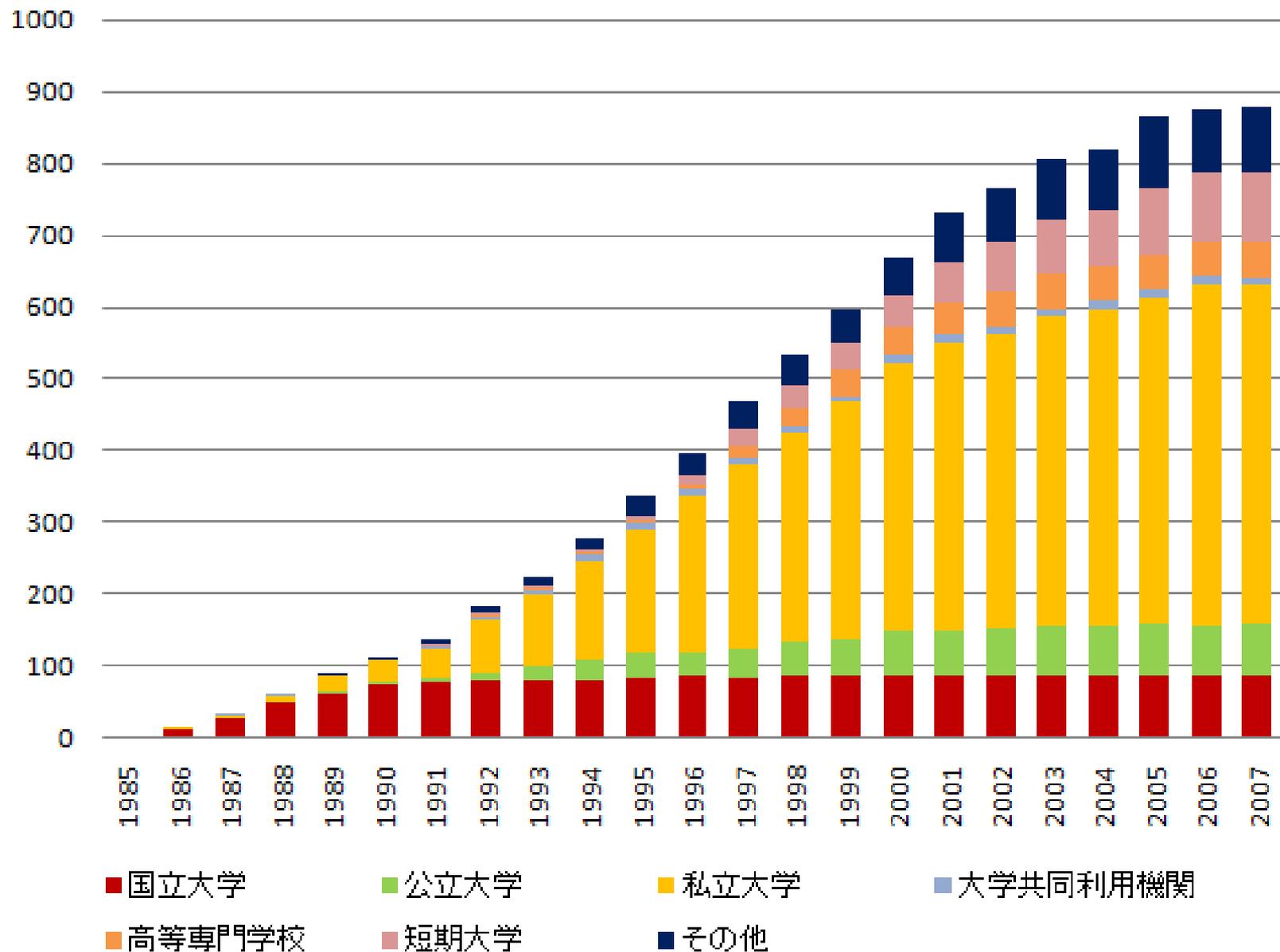
- 例) 利用ログ(利用、選択の実績)をもとにしたランキング

## 6. 参加機関における経営合理化の要請と業務の多様化への対応体制

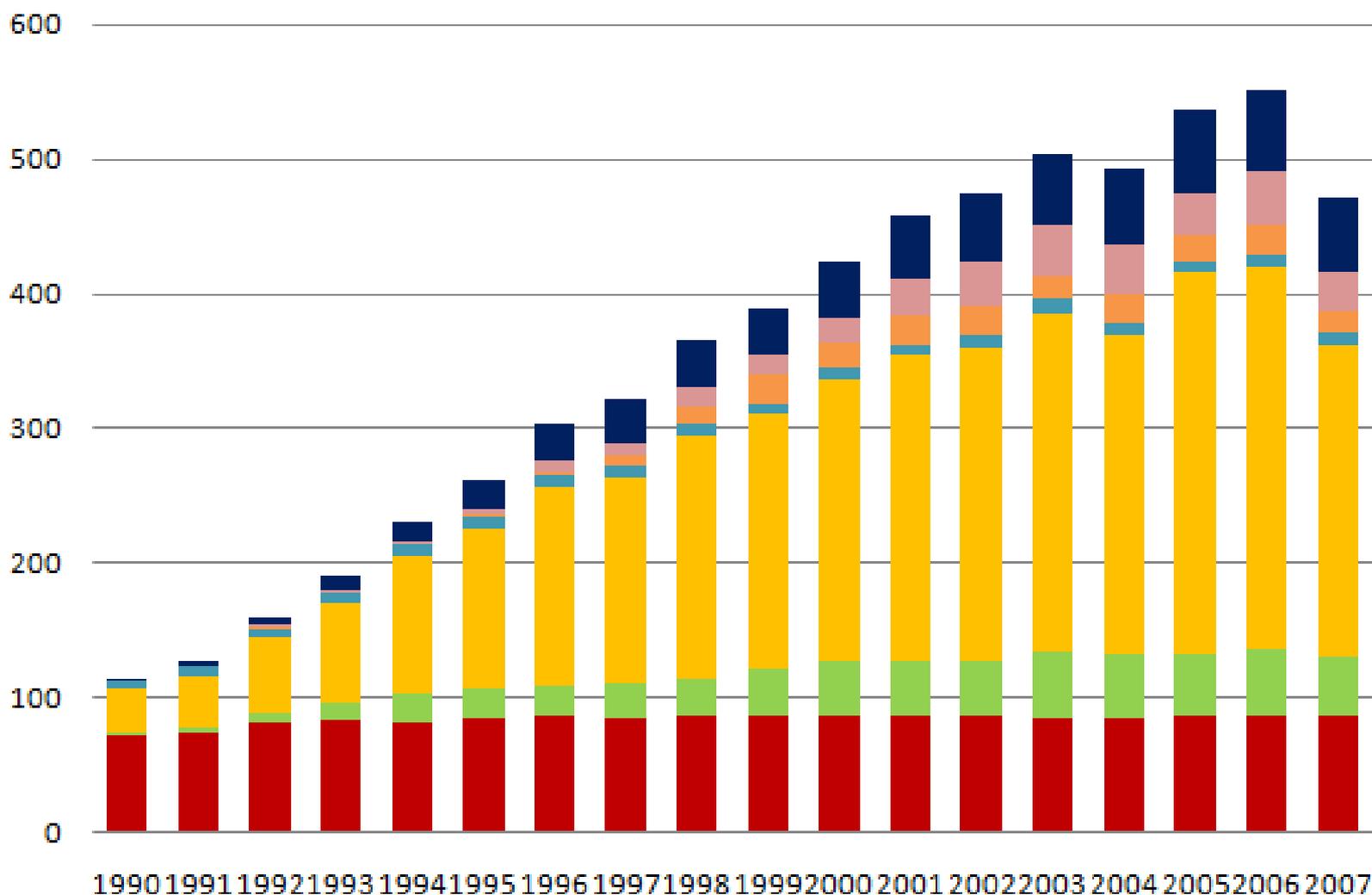
- 経営合理化の要請と人員削減またはアウトソーシング
- 業務の多様化
  - 特に、新たな情報資源への対応
- さらなる効率化を求める意見

※一方での「目録品質の維持」という命題

# 年度ごとの所蔵レコード作成機関数



# 年度ごとの書誌レコード作成機関数



■ 国立大学

■ 公立大学

■ 私立大学

■ 大学共同利用機関

■ 高等専門学校

■ 短期大学

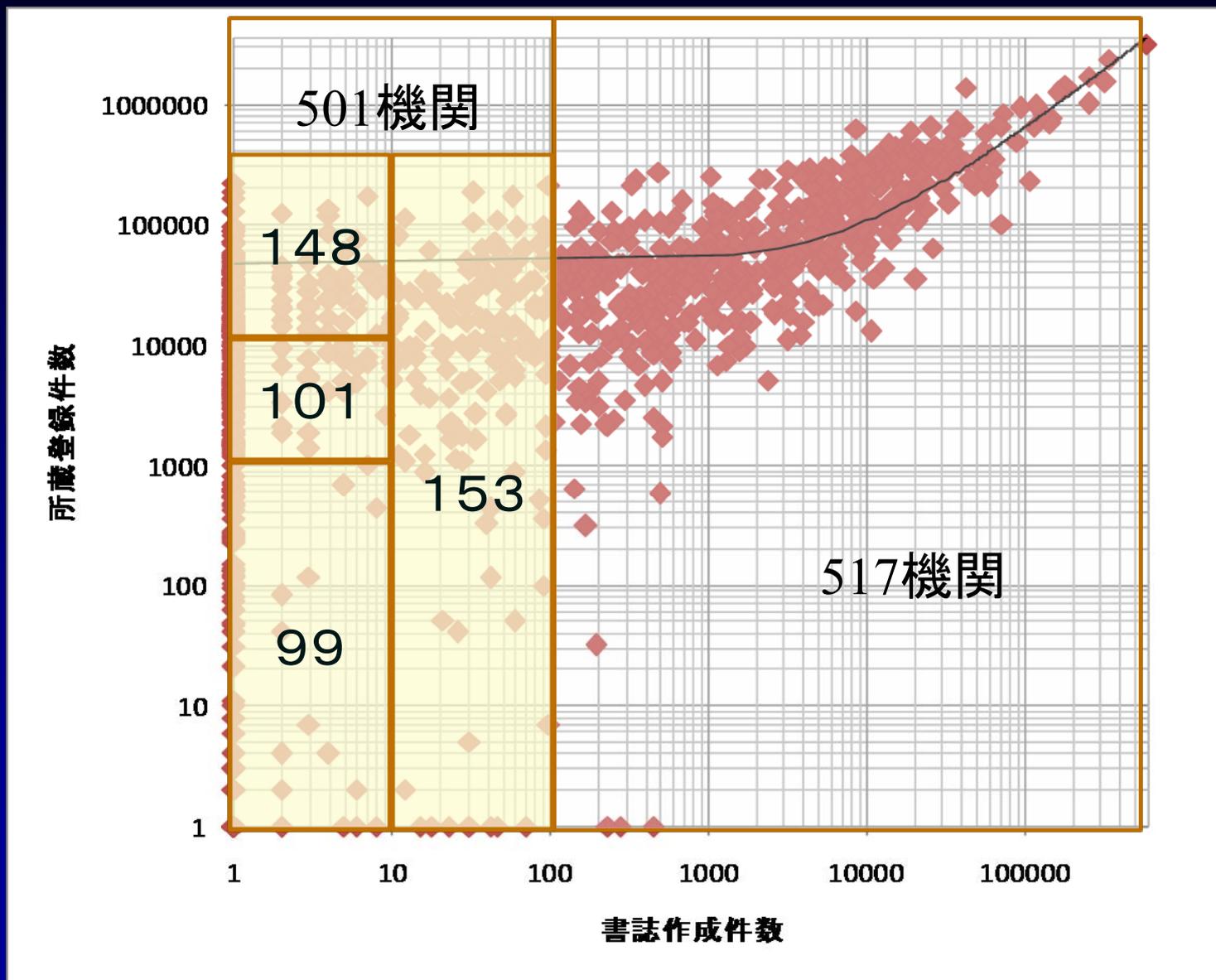
■ その他



# 登録年ごとの書誌レコードと 所蔵レコードの件数

登録年	書誌レコード		所蔵レコード		所蔵／書誌の比率	
	件数	対前年比	件数	対前年比	比率	対前年比
1985	1,234		905		0.73	
1986	32,233	2612%	29,335	3241%	0.91	124%
1987	172,101	534%	263,022	897%	1.53	168%
1988	226,685	132%	605,681	230%	2.67	175%
1989	223,081	98%	926,178	153%	4.15	155%
1990	233,951	105%	1,564,184	169%	6.69	161%
1991	286,816	123%	1,761,185	113%	6.14	92%
1992	303,552	106%	2,245,032	127%	7.40	120%
1993	327,042	108%	2,830,831	126%	8.66	117%
1994	323,155	99%	3,636,907	128%	11.25	130%
1995	367,927	114%	4,330,969	119%	11.77	105%
1996	383,778	104%	4,793,191	111%	12.49	106%
1997	437,953	114%	5,138,218	107%	11.73	94%
1998	441,373	101%	5,912,383	115%	13.40	114%
1999	453,806	103%	6,344,111	107%	13.98	104%
2000	452,953	100%	7,332,298	116%	16.19	116%
2001	450,406	99%	7,057,235	96%	15.67	97%
2002	468,209	104%	6,710,318	95%	14.33	91%
2003	461,386	99%	6,402,083	95%	13.88	97%
2004	495,788	107%	6,306,178	99%	12.72	92%
2005	465,259	94%	6,212,707	99%	13.35	105%
2006	494,945	106%	6,181,854	100%	12.49	94%

# 機関別書誌/所蔵登録件数の散布図



# 検討事項

- 当初の6つの論点

①運用方式、②発生源入力、③電子情報資源、④新たな情報提示方式、⑤データベース構造(目録規則との関連)、⑥図書館業務システムとの関係

- 3つのテーマ

1. 「資料」—特に、ERMSとの関連
2. 「システム」—特に、データ構造、データ作成基準
3. 「運用」—発生源入力、今後の運用方式